

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2017年6月1日
(No. 86)

2017
*
6月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (14)

東川 (柳瀬川支流)

柳瀬川の支流のうち、狭山丘陵の南から流れ出す空堀川に対し、北側から流れ出すのが東川。狭山湖北側と尾根を挟んだところに源流があり、所沢市街地の中を抜け、東所沢駅の北を流れ、関越道の東側で柳瀬川に合流します。写真は下流域ですが、両岸はコンクリートブロックの急傾斜護岸で、川幅は狭いのに深さがかなりあり、川の流れに近付くところは殆どありません。河床は急傾斜で落差工が多く、魚は殆ど登れません。以前は所沢市の古い下水処理場があり、その放流水が普段の水の殆どでしたが、これが廃止になり、水質は向上したものの、流量はほんのわずかになってしまいました。(天田 眞)

2016 年度の報告と 2017 年度の予定

● 2016 年度の活動報告

◆環境、施設の保全・管理及び創出事業

①里山の手入れ：「いろは親水公園こもれびのこみち」「西原ふれあい第三公園」の2か所の斜面林の日常管理作業（清掃、落葉掃き、下刈、中低木の除伐・剪定、急斜面保護、希少植物の保全等）を行いました。（計3回/月）

②河川敷の清掃：柳瀬川右岸志木中学校付近と新河岸川右岸富士下橋下流の2か所で河川敷のごみ拾いを行い、県の「川の国応援団」の活動として報告しました。（各1回/月）

③外来植物駆除事業

(a) いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」保全作業：カヤネズミやオオヨシキリなど希少生物の保護のため、5～8月にオオブタクサの駆除作業を行いました。（4回）

(b) 柳瀬川・外来植物駆除作戦：志木中学校1・2年生34名の参加を得て、柳瀬川右岸の富士見橋から高橋まで、主にオオブタクサの駆除作業を行いました。（1回）

◆調査、研究事業

①柳瀬川生きものウォッチング：柳瀬川右岸富士見橋～高橋及び富士見市水谷田んぼで野鳥など動植物の調査を行いました。（1回/月）

②侵略的外来生物県民参加モニタリング調査：埼玉県の事業に協力し、市内を中心に外来生物の実態調査を行いました。（8区分）

③身近な川の一斉調査：「新河岸川水系」と「全国」の調査に参加し、志木中学校科学部と共に、市内8か所の水を調査しました。（1回）

④埼玉県内一斉ガンカモ調査：埼玉県生態系保護協会志木支部の柳瀬川志木大橋～新河岸川合流点の調査に協力しました。（1回）

◆観察会及び学習・教育事業

①柳瀬川であそぼう：親子向けの魚捕り体験等の川遊びイベントを実施しました。（1回）

②自然観察会：大人向け企画として、柳瀬川で春に「志木の自然観察会」を、冬に「冬の野鳥観察会」を開催しました。（計2回）

③「カヤネズミ原っぱ環境応援作戦」：いろは親

水公園「ヨシ・オギ群落保全地」で、カヤネズミの生息環境保全への意識醸成を図る親子向けのイベントを行いました。（1回）

④ぶらり散歩：「柳瀬川ぶらり散歩」として、志木から西所沢まで2回で歩き、又、市内では「志木の崖線を歩く」として、志木地区の台地の縁に沿って歩きました。（計3回）

⑤小学生の環境学習への協力：小学校の総合学習やクラブで講師を務め、地域団体の柳瀬川での生き物調査に協力しました。（7件）

⑥市民講座等での講師：県環境部水環境課の「川の再生ボランティア体験講座」の開催に協力しました。（座学及びフィールド体験）

⑦ボランティア体験者受け入れ：社会福祉協議会の「地域ボランティア団体体験プログラム」で中学・高校生を受入れました。（22名）

⑧イベントへの参加・出展：地域の催事等に参加し、出前水族館やどんぐり・落葉工作、活動紹介展示や資料配布を行いました。（4件）

◆出版、広報事業

①エコシティ志木通信の発行：本紙とイベントカレンダーを年4回発行しました。

②ホームページ管理：エコシティ志木ホームページ及びブログで情報発信を行いました。

③活動紹介展示：催事で当会の活動状況の展示を行いました。（2件）

④（仮称）『いきもの図鑑』刊行事業：2017年度中の刊行を目指し、写真撮影・説明文作成等の作業を進めました。

◆エコミュージアム事業

①志木まるごと博物館 河童のつづら：ホームページによる情報発信を行いました。

● 2017 年度の計画

2016年度事業の内、「柳瀬川生き物ウォッチング」を改変し、広く市内を対象にした「市内生き物調査」とします。また、他団体主催の「埼玉県内一斉ガンカモ調査」への協力は終了します。これら以外の活動は全て2017年度も継続します。

（天田 眞）

柳瀬川のあらまし (2)

空堀川との合流点

淵の森を過ぎ、西武池袋線と武蔵野線をくぐると、右岸側は清瀬市に入り、やがて空堀川との合流点です。ここでは、柳瀬川と空堀川の合流点を移動させる大規模な工事が東京都により行なわれ、昨年竣工しました。

柳瀬川はこの付近で、左側に半円を描くように大きく蛇行しており、その下流側で空堀川と合流していました。一方、上流側の蛇行が始まる地点は、右側を流れる空堀川と接近していました。そこで、洪水対策から、この蛇行が始まる地点と空堀川を新河道でつなぎ、洪水流が蛇行部分を通らないように流してしまおうという工事です。

この半円の蛇行部分は豊かな河畔林と自然な石の河原がある大変貴重な環境(写真1)でしたが、竣工後は、洪水時には新河道でつながれた新合流点に向け越流した水が流れますが、平常時は今までと同様に、半円の蛇行部分の川に水が流れます。

ここは所沢市と清瀬市の境界部分ですが、地元の川づくり市民団体「川づくり・清瀬の会」は、川本来の自然が生きた『いい川』にするため、長年にわたり都と交渉してきました。結果的には旧柳瀬川は残りましたが、柳瀬川と空堀川をつなぐ新しい河道では、市民の願いはかなわず、完全にコンクリートで固めた放水路となり、不満の残る工事になりました。(写真2)

空堀川とは

空堀川は狭山丘陵の南側を、武蔵村山市・東大和市・東村山市・清瀬市と東に流れていますが、流域は全て東京都であり早くから都市化が進んだ、典型的都市型河川です。さらに、空堀川の名の通り、毎年、渇水期に水が無くなるという問題を抱えています。元々、地下水位が河床より低く湧水が入らず、逆に川の水が河床の砂礫層に抜けてしまうのが原因ですが、近年の改修で、その傾向が強まっているようです。

空堀川は勾配が急で、落差工と呼ばれる流れに段を付ける構造物が沢山あります。勾配が急だと河床が削られやすいので、勾配を緩くし、所々に

コンクリート構造物で段をつくるのですが、この前後には河床が削られた様子が見られます。近年、柳瀬川最下流の志木では、上流からの土砂の流入・堆積が増えていますが、その原因の一つは空堀川や柳瀬川空堀川合流点の工事ではないかと、私は考えています。

(天田 眞)



1. 残された旧柳瀬川の河畔林と砂利の河原



2. 旧柳瀬川(後方)と新合流点を結ぶ新河道



3. 空堀川の落差工とえぐられた河床

3月20日（月・祝）柳瀬川ぶらり散歩（2）

空堀川合流点から上流へ

「柳瀬川ぶらり散歩」の2回目。今回は、所沢市の空堀川と柳瀬川の合流点付近から西所沢駅まで5時間あまりのやや長い行程を歩きました。先導と解説は天田代表です。志木駅前に28名が参加、路線バスで前回解散地近くの台地上へ、ここから見下ろす柳瀬川低地はかなり迫力があります。崖下の柳瀬川・空堀川合流点へ。この場所が前回の最終地点で、今も河川改修作業が続いているようです。現在の空堀川の一部を新柳瀬川と結び、蛇行している柳瀬川を直線化する洪水対策ですが、残った旧柳瀬川もそのまま残すということで結構複雑な工事になっています。

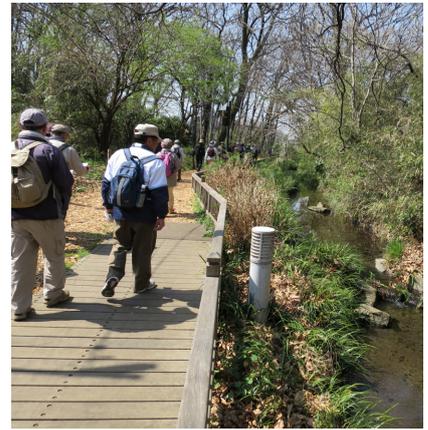
清瀬市の宮沢さんなどの説明では、この改修工事ではなるべく川岸の自然地形を残すようにと要望したそうですが、受け入れられたのは空堀川部分だけだったようです。見慣れていないせいか、水のない空堀川はかなり異様な感じでした。その後、旧空堀川の流路を利用した「せせらぎ公園」や「中里緑地保全地域」を見学し、市民の努力によって貴重な自然が守られていることに感心しました。

ついで空堀川をはなれ秋津駅方面へ。この付近の柳瀬川もくねくねと蛇行していますが、川岸ぎ

りぎりまで宅地化されていて、遊歩道もありますが、改修は不可能のようです。西武池袋線を越えたところ

の秋津公園で昼食休憩。その後、安松橋を渡って柳瀬川を降りると、貴重な自然林に囲まれてゆっくり蛇行する水の流れています。ここが「淵の森」です。一時、宅地化の危機がありましたが、多くの市民の活動で公有地化され、この貴重な景観が保存されたのは有名な話です。河畔林もかなりの部分が保全されています。私は以前、鎌倉古道の探索会でこの上の神社まで歩きましたが、川には寄りませんでした。関心の持ち方で地域の自然や景観の見方も変わりますが、柳瀬川沿いは古代からの関東地域の文化の交流地でもありました。

最後は、八国山を後ろに見ながらまち歩き、立派な庚申塔のある永源寺で休憩した後、西所沢駅で解散でした。（筑井信明）



【写真：毛利将範】

4月16日（日）志木の自然観察（春）～河原と樹林の春を訪ねる～

柳瀬川と団地と斜面林の春を訪ねました 参加者24名

まず柳瀬川の右岸堤防に出、天田代表から桜の木にいるヨコズナサシガメの幼虫の集団越冬の話の聞き、河川敷へ。

ヨシやオギなどが枯れ草の根元から新しい芽を出し、水際のブロックの隙間にはイの群生が。あちこちで春の野草が見られ、野草に詳しい会員が参加者たちに説明。

モンシロチョウが飛びまわる春の訪れを楽しみながら、志木大橋のたもとでは、柳瀬川の水中の石をめぐって、その下にいる川虫の観察しました。そして志木大橋を渡り、関東ローマ層の赤土と、大昔の川が運んだ玉石を見学。

志木ニュータウンの団地に移動し、コナラやク



ヌギなどの樹木の説明を聞き、当会が毎月2回保全作業を行っている西原ふれあい第三公園の斜面林へと行きました。

斜面林の南側にはシダレザクラ・ユキヤナギ・ヤマブキなどのいろいろな花木が咲き乱れ、鳥の声も聞こえ、淡い花の色は

心を癒してくれる雰囲気でした。

北側の斜面林は自然林となっており、手入れをしているので樹木の間から太陽光が入り、足元にはたくさんの野草が生えていた。今回は、春だけに咲く貴重な植物も観察し、この斜面林は、これからもずっと守っていかねばならない場所だと改めて感じました。（山口美智江）

「川の再生ボランティア体験講座」を行いました

埼玉県水環境課の「川の国応援団」と共催で、2日間コースの講座を行いました。

1日目の3月14日（火）は、いろは遊学館にて柳瀬川の紹介とボランティア体験談等を行いました。先ず、柳瀬川と新河岸川の源流付近からの写真をプロジェクターで見ながら、天田さんが説明を行い、そのあと私が、市内の最近の柳瀬川や親水公園について、これまで撮り溜めた写真を写しながら紹介しました。柳瀬川の浚渫工事の様子や、雪景色や増水時の様子なども映像で紹介することができました。柳瀬川周辺で見ることができる生き物についても、紹介をしました。この後、天田さん、毛利さん、山口さんと私の4人で、夫々これまで感じたことや思ったことを話し、最後に、「外来植物って、なぜ悪いの」というテーマで意見交換を行いました。

2日目の18日（土）は、ボランティア体験と



いうことで、定例で行っている「こもれびのこみち」の斜面林手入れに参加してもらいました。通常の場所に加えて、左岸の「ヨシ・オギ群落保全地」のゴミ拾いも行いました。運よく、田子山富士に登り、志木の名所も楽しんでもらいました。
(青木明雄)

カヤネズミ原っぱで外来植物駆除を行いました

5月20日（土）に、今年初めてのカヤネズミ原っぱでの外来植物駆除を行いました。

アシやオギは、もう私の背丈以上になっていました。先ずは、いつものように、一周回ってカヤネズミ原っぱの観察を行いました。ここ数年のエコシティ志木での積極的な取り組みにより、かなりオオブタクサが減ってきました。当初は、オオブタクサを抜いてもあまり効果がないといった声も聞こえましたが、先が見えないくらいの抜き取り作業に取り組んできて本当によかったと思っています。思った通りに成果が出ていると確信しています。クワの実も、木によって大分差がありますが、かなり赤くなってきて、おいしくいただきました。オオヨシキリも大きな声で鳴いていました。昨年は、オオヨシキリの数が少なく感じましたが、今年は、たくさん来ています。これもオオ



ブタクサ駆除の効果でしょうか。楽しくなります。今回は、刈込がされている昭和の堤防側を行いました。とても暑い中での作業になりました。

一方、5月13日（土）に予定されていた柳瀬川の美化活動と外来植物駆除は、雨の為中止となりました。
(青木明雄)

いろは橋から袋橋周辺の自然散策

NPO法人エコシティ志木事務局長 青木 明雄



袋橋右岸の田んぼ

袋橋右岸の田んぼ

いろは橋から新河岸川を900メートル程上流に行くと袋橋があります。右岸は、市役所のあたりと袋橋付近を除いて、富士見市になっています。

これは、かつて新河岸川がこの辺りで大きく蛇行していたためです。河川敷は、柳瀬川程広くなく、草藪も多く、あまり歩くような場所でもありません。河川敷には、沢山の木が生えています。いろは橋と宗岡第4小学校との中間付近にある大きな柳の木には、この2・3年夕方になると、サギが沢山、木に止まっているのを見かけます。サギたちにとっては、安心できる場所のようです。

左岸には、宗岡第4小学校・志木高校・宗岡中学校が並んでいて、校庭がある為、見た目も広い空間が残っています。土手の上を歩いている人は、それほど多くありません。野鳥やいろいろな

生き物にとってはすみ心地がよさそうです。

草木の多い河川敷を見ながら土手の上を歩いてみると、穏やかな川の流れや周辺の緑、そして広々とした空間を目で楽しみながら散策できます。土手沿いに並んでいる学校との間には、大きな木が植えられており、袋橋までは、鳥のさえずりも聞きながら自然の中を散策できます。

袋橋の右岸には、まとまった田んぼが残っています。左岸の土手からは、田んぼの先の住宅越しに富士山を眺めることができます。4月には、田んぼに水

が張られ、稲も植えられ、やがて、カエルの声も聞こえる緑豊かな場所へと変わっていきます。

まだ稲を植えたばかりの田んぼの中にカルガモがいました。道路を隔てた農家の裏側にも、畑がありました。畑の横のがけ下に水路があります。この水路は、畑と、隣の富士見市との間のちょっとした谷を流れています。少し広いこの谷合には、歩きやすいような木道があり、池や広場もあり、富士見市近隣の憩いの場となっています。ここには、いつもセキレイやカワセミなどが飛んできています。



佃堤とバイパス



ぶらり散歩マップから



大小合併門樋付近

袋橋に戻りますが、上流側の左岸には、千光寺と宿の水川神社があります。千光寺の裏側には、江戸時代に、宗岡地区をぐるりと取り囲んで水害から守っていた総囲堤があります。この堤は、佃堤と言いますが、今でも 300 メートル程残っています。

和光・富士見バイパスができることにより、また少なくなりそうです。以前は、水川神社から新河岸川の土手までは、盛り土がされておらず、河川敷と同じくらいの高さで、木が沢山茂っていました。志木高校の野球グラウンドの辺りも、昔は、船の渡し場あったところで、大仙寺・千光寺の脇を通る旧鎌倉街道は、この渡し舟で対岸に繋がっていました。以前の高さは、今も残る千光寺裏の佃堤のところで見ることができます。この土手には、たくさんの木が生えており、「ふくろ樹林」として残されています。

宿の水川神社は、この堤防の高さのところに作られています。昔の堤防は、この神社のあたりから左に大きく曲がっていました。

宗岡を囲っている「下ノ谷堤」は、今の志木中学校や志木高校・宗岡第 4 小学校脇の総合福祉センターを新河岸川で挟むような形になっています。今の堤防ができる前は、ここまで新河岸川は蛇行していました。

総合福祉センター付近の「下ノ谷堤」には、「大小合併門樋」があり、この堤の脇の広い田畑のかなりの部分が、和光・富士見バイパスの予定地となっていて、下南畑の交差点で富士見バイパスに繋がります。

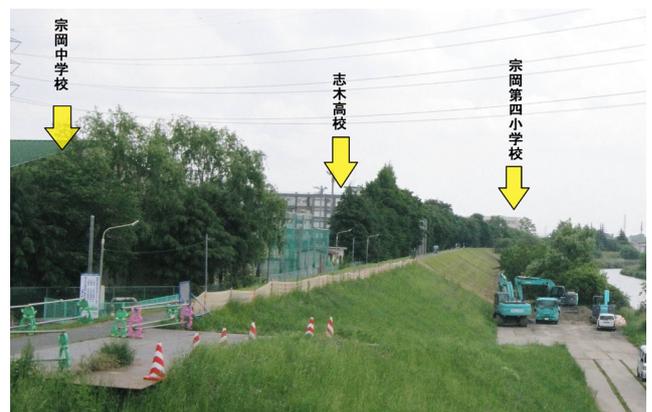
この「下ノ谷堤」の上は狭いが道路として使われ、天神社の脇を通り、いろは親水公園の左岸へと繋がっています。

宗岡第 4 小学校の入り口から天神社までの道路脇には「ハーベストモール」と呼ばれる小路があり、いろいろな木が植えられた遊歩道となっています。遊歩道の脇には、広い草地が広がっていますが、あまり使われていないようです。

小学校の外側を、水路が流れて新河岸川にそそいでいますが、この水は、小学校入口の「下ノ谷堤」にある「北美塚樋」と総合福祉センター - 近くの「大小合併門樋」の 2 か所の樋管から流れてきています。

水路の隣には、「みどりの学校ファーム」があり、田んぼと畑があります。以前は、水路とあまり変わらないくらいの高さの田んぼでした。水路を見ればかなり盛り土しているのが分かります。この田んぼにも、ハクセキレイやキジバト・ツグミ・ムクドリなどの鳥がよく来ています。もう稲も植えられて、こどもたちの手入れで、夏には、稲もしっかり育っているだろうと思います。

天神社を横に見て歩いていくと、道路を渡って親水公園横の道に繋がっていきます。今回ご紹介したコースの中には、まだまだ自然を感じる緑や水や広々とした空間がありました。



新河岸川左岸

大勢で見ることによって、いろいろな観点で気が付きます

4月から、予定通り草本の初校版作成に入りました。まだ見直しが必要な部分が残っていますが、見直し部分は、初校版ができたところで反映する事にしました。

5月からは、Bチーム分の初校版作成に入る計画ですので、4月は、Bチーム担当分のレビューを行っています。このレビューは、全体で行うと時間が無くなるので、リーダーだけで行った方がいいといった考え方もありますが、基本的には、少人数でやっても全体でやってもそれほど時間の差はないと考えていることと、大勢で見ることによって、いろいろな観点で気が付くこともあり、よりよい図鑑になっていくと考えています。できるだけ全体のレビューの中で、皆さんの意見を聞き、よりよいものにしていきたいと思っています。

各チームとも共通的に言えることですが、図鑑に掲載する写真の撮り直しには、季節やタイミン

グが必要です。花の写真等、咲く時期を逃すと、また1年後になってしまいます。特に、樹木については、まだまだ花ばかりでなく、実の写真についても不十分なものがありますので、今回は、計画を立てて写真を撮ることになっています。

(青木明雄)



5月14日(日)

「志木おやこ劇場子どもまつり」に出展しました

5月14日(日)に「志木ニュータウン中央公園」において、「志木おやこ劇場子どもまつり」が行われ、「柳瀬川出前水族館」を出展しました。既に捕ってある魚だけでは足りないため、朝8時から柳瀬川で、魚と虫を捕ることにしました。前日の雨による増水の影響もあるのか、なかなか捕れませんでした。何とかヌマチチブ、テナガエビ、ドジョウ、ウキゴリの幼魚、カダヤシなどを捕り、水槽に加えることができました。この出前水族館は、子ども達ばかりでなく、お母さんやお父さんにも人気があります。皆さん驚くのは、「そこの柳瀬川で捕れたんですか!」ということです。いつも見慣れた、こんな身近な柳瀬川に、魚がいて、簡単に、朝捕ってきて、この水槽にいるという事に、皆さん驚きます。

いつまでも、水槽から離れようとしないう



どもや親たちには、また6月18日(日)に、志木中学校前の土手で、柳瀬川水族館を開くことを伝えながら、イベントカレンダーを渡して、PRをしました。私も、エコシティ志木の事業の中で、この柳瀬川水族館は好きな事業の一つです。最近少し魚が減ってきたのが気になります。今年も出展してよかったと思います。

(青木明雄)

● 志木 自然インフォメーション ●

生き物情報は→ ファクス 048-471-4275 e-mail : qwj11624 @ nifty.com (毛利) へ
ホームページ「発見!! 街の自然」<http://kappa-no.net/sizen-info.html>

- ① トビ(1) → 3月8日(水) 水谷田んぼで[毛利将範]
- ② タシギ(1) → 3月22日(水) 水谷田んぼの水路で、飛び立つ前に発見しましたがチョー警戒しているようす「[毛利将範]
- ③ コチドリ → 4月4日(火) 水谷田んぼに渡ってきたコチドリ[毛利将範]
- ④ アメリカヒドリ(1) → 4月4日(火) 柳瀬川・栄橋上流で。ちょっと交雑種かもしれませんが・・・[毛利将範]
- ⑤ ハマシギ(追っかけっこ) → 4月4日(火) 柳瀬川・高橋下流で[毛利将範]
- ⑥ カントウタンポポ(開花) → 4月5日(水) 田子山富士塚の斜面に群落があります[毛利将範]
- ⑦ カルガモ → 4月16日(日) 柳瀬川富士見橋下流[青木明雄]
- ⑧ ホトトギス(鳴き声) → 5月30日(火) 0時頃 西原斜面林の方向から[天田いづみ]



② タシギ [毛利]



⑦ カルガモ [青木]



③ コチドリ [毛利]



④ アメリカヒドリ [毛利]



⑤ ハマシギ [毛利]



⑥ カントウタンポポ [毛利]

環境 ひとくちメモ (44) 伊藤 智明

「ニホンウナギの生息地保全の考え方」

ニホンウナギは、外洋のマリアナ諸島西方海域に産卵場を持ち、東アジアの沿岸で成長する降河回遊魚であり、一生の大部分を河川や沿岸域等で過ごすと言われていています。環境省は、ニホンウナギの個体数が1960年から70年代と比較すると大きく減少しており、河川や沿岸域等の生息環境の変化が個体数の減少要因の一つと考えられることから、専門家による検討会を踏まえ、「ニホンウナギの生息地保全の考え方」をとりまとめています。

具体的には、縦方向のつながり(落差の緩和等)・横方向のつながり(河川と水田・水路・ため池の連続性の確保等)・水域全体のつながり(河川を下る際の安全性の確保等)などの移動の確保、か

くれ場所・多様な水深・水際の多様性・河口と沿岸域(干潟)の重要性・豊かな餌生物・水質などの局所環境の改善が挙げられています。

志木市内でもたまたまニホンウナギに出会えることがあります。これらの川づくりが増えれば今よりもっと出会えるようになりますね。



出典：環境省 報道発表資料 平成 29 年 3 月 31 日「ニホンウナギの生息地保全の考え方」の公表について
<http://www.env.go.jp/press/103864.html>

☆会員状況

2017年度更新済み（5月29日現在）

正会員(個人) 39
正会員(団体) 2
賛助会員 1

寄付金を頂きました。ありがとうございます
伊藤智明さん

- ★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
- ★2017年度の継続更新をよろしく願います。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場
いろは遊学館利用者の会
志木市コミュニティ協議会
志木市社会福祉協議会
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川水系水環境連絡会
新河岸川流域川づくり連絡会
柳瀬川流域水循環再生市民懇談会
彩の国南西部地域NPO連絡会
川の国応援団
埼玉県生物多様性保全活動団体登録
彩の国みどりのサポーターズクラブ
志木市公園美化活動会
志木市放課後子ども教室りんくす
志木市立教育サポートセンター
市内小中学校

**情報満載！
当会のホームページ**

NPO法人エコシティ志木
<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら
<http://kappa-no.net/>

2017年度 役員

代表理事 天田 眞
理事 青木 明雄 事務局長／広報部長
伊藤 智明
松田 勝正
山口 美智江 副代表
監事 宇津木 美恵子
大田 文佳

2017年度 予算 (2017年4月1日～2018年3月31日)

特定非営利事業に係る事業（今年度の収益事業計画はありません）

●収入 (単位:円)

科目	予算額	備考
1 会費等収入	140,000	
個人会費	120,000	
団体会費	10,000	
賛助会費	10,000	
2 事業収入	200,000	
保全・管理・創出	40,000	斜面林管理報奨金
調査・研究	60,000	生き物モニタリング調査費
観察会・学習・教育	100,000	謝金、参加費、資料代等
出版・広報	0	
エコミュージアム	0	
提言	0	
3 助成金収入	20,000	
行政	20,000	市生涯学習課
その他	0	
4 雑収入	10,000	
寄付金等	5,000	
その他	5,000	
5 収益事業より繰り入れ	0	
当期収入合計	370,000	
前期繰越金	1,184,334	
収入合計	1,554,334	

●支出

1 事業費	157,000	
保全・管理・創出	20,000	斜面林管理、外来種駆除等
調査・研究	5,000	生き物調査等
観察会・学習・教育	40,000	観察会等
出版・広報	70,000	エコシティ志木通信、いきもの図鑑等
エコミュージアム	5,000	
提言	5,000	
保険料	12,000	
2 管理費	199,000	
租税公課	0	
旅費交通費	2,000	
通信運搬費	2,000	
消耗品費	1,500	
給与手当	0	
事務局経費	160,000	事務局分散運営費
印刷費	1,500	総会議案書等
参加団体会費	17,000	6団体分
雑費	5,000	
会議費	10,000	運営会議等会場費
3 予備費	10,000	
当期支出合計	366,000	
当期収支差額	4,000	
次期繰越金	1,188,334	

セミはカメムシの仲間で、口は細長い管状です。雄は、殆ど空洞の腹部を共鳴させて鳴きます。土中で3～10数年の幼虫期間を過ごし、成虫は1か月ほど生きます。

私の家は西原斜面林が目の前で、夏中ずっとセミの声を聞いています。一番多いのはアブラゼミ。茶色の翅で、「ジリジリジリ・・・」という鳴き声はいかにも暑そうですが、その名は「油で揚げている様な鳴き声」という意味です。最近では夜中にも鳴くので迷惑ですが、これは、暑さや明るさが原因などと言われていました。

夜、地面から出た幼虫が、我が家の玄関付近をうろうろしていることがあり、カーテンに止まらせると羽化の様子を見られます。背中に割れ目が入ってから翅が伸びるまで1時間位。羽化の時は翅も胴体も真っ白で、朝には茶色になっています。

次に多いのがミンミンゼミ。「ミーンミーンミンミンミン・・・」というわかりやすい鳴き声で、翅が透明です。アブラゼミとミンミンゼミは体長・体形が同じで、よく見かけるセミの抜け殻は殆どがこの2種ですが、見分けるには触角を比較します。

梅雨明け頃、一番先に鳴き出すのはニイニイゼミ。小型の種で、「チーー」又は「ヂーー」と、文字で表すのが難しい鳴き声ですが、私には耳鳴りの音とそっくりです。抜け殻の表面に土がついています。

最も遅く8月に鳴き出すのがツクツクボウシ。「オーシツクツクツク・・・」と独特な鳴き方はおなじみかと思います。他に、数は少なくなりますが、朝夕に「カナカナカナ・・・」と鳴くヒグラシ。そして、数年前からは、南方系だったクマゼミの声も午前中に聞くようになりました。



アブラゼミの羽化 1



アブラゼミの羽化 2



アブラゼミの羽化 3



アブラゼミ



ミンミンゼミ



ニイニイゼミ



ニイニイゼミの抜け殻



ツクツクボウシ



公園のセミの抜け穴

小笠原の旅

宇津木 美恵子



その4 山-外来種

小笠原は大陸と繋がっていたことがない海洋島のため、固有種が沢山います。人間の活動により持ち込まれた外来種は、脆弱な固有種を絶滅させたり減少させたりしています。そのため、賢い人間は、固有種を守るため、外来種の駆除を行っています。

その一つがトカゲの一種であるグリーンアノール。船などに紛れ込んで侵入したと言われていています。グリーンアノールは昆虫類の固有種を捕食するため、森の生態系を壊す一因になっています。父島では、アノール粘着シートという、ちょうどゴキブリホイホイのようなもので駆除しています。父島の中央山頂上では、あちこちで、かわいらしいグリーンアノールが体色を自由に変化させながらちょこちょこ歩き回る姿を見かけました。駆除対象の生き物だと思えば、ちょっと心が痛みました。

その他、人間が持ち込んで野生化したノヤギやノネコ、ネズミの調査と駆除も行われています。柵を設けて、固有種を脅かさないような手段をとっていました。

植物では、アカギという外来樹木があちこちに繁茂。森林に差し込む日を遮り、固有種の動植物に影響を与えています。そのため、カタツムリなどの固有種の生息にも影響がないように、また、

伐採中に他の植物を痛めないように専門家の指示に従って特殊伐採が行われています。

そのあたりは、会員の伊藤智明さんがお仕事で関わっていらっしゃるの、とても詳しいと思います。

余談ですが、特殊伐採のお仕事中の伊藤さんと、母島から父島にわたる船の中で遭遇。東京から1000キロ離れた孤島で、エコ志木メンバーの固い絆を体験しました。ね！伊藤さん!! (写真はホルスタインでなくノヤギです)



グリーンアノール茶色



看板



グリーンアノール緑



ノネコ駆除



グリーンアノールの駆除



ノヤギ

編集後記

◇宇津木さんの「小笠原の旅」はこのページに移動しました。9回連載の予定です。お楽しみください。◇8ページに当会創立20周年記念事業「いきもの図鑑(仮称)」づくりの報告があります。作業を始めて2年目に突入しましたが、より良い図鑑づくりを目指して奮闘中です。どんな図鑑になるか、完成が待ち遠しいです。(梟)

エコシティ志木通信

第86号 2017年6月1日

〈発行〉

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com